

# 「3日連続で終電帰り、死ぬ」

日本民主青年同盟(民青)は、青年が置かれてくる環境や将来のことなどについて聞き取り活動を全国で行っています。「いまの暮らしと政治」について、新自由主義を乗り越えるための青年の生の声「運動」です。これまでに1111人の「生の声」から浮かび上がった特徴を見てみる。

愛知県に住む男性(33)は、給料が上がらず、結婚や子育てなど将来のことなど不安になる。もし給料が上らなくても将来のために貯蓄に回したい」と話し、

## 民青「生の声」が示す青年の今

東京都の男性(31)は、「3日連続で終電帰り。死ぬ。フリーランスなので仕事ができないうちにならないうち」。バイトがある日は終電まで働いている。

東京都の女性(20代)は、「アルバイトで月収は8万円。コロナ禍でバイトがなくなり2月の収入はゼロ。給料はスマホ代、家賃、光熱費で消えて貯金ができない」。神奈川県の大学生は、

「居酒屋でバイトしているが、コロナ禍で半年くらい休業。その間は月4万円程度の仕送りであり、バイトがある日は終電まで働いている」。

「1週間、生理用品をトイレットペーパーで代用するなど、生活の貧困の問題を知って、もっと寄り添った支援が必要だと感じた」と話します。

「格差は埋まらないと感じている中で、子どもの貧困にさえも責任を当てる出陣しても子どもに苦勞かけさせる。税金は持っている人から取ってほしい」といいます。

愛知県男性(33)は、「日本の貧困がコロナであがり出された。自分の努力では解決できない貧困に心痛めている。非正規の人が構造上抜け出せないようにならなければ、本来は政治の役割」。

愛知県男性(25)は、「安倍政権以来年々貧困がひどくなっている。社会にあるセーフティーネットが全て共助になって

## 格差と貧困の拡大実態次々

「多くの青年が、日本は格差と貧困があり、解決するべき問題だと考えている」と述べました。(つひ)